

◆最近の野菜や果実の放射性物質検査

地方公共団体は、食品の放射性セシウムの検査を行っています。安全性の基準値を超える可能性のある地域・品目は、特に検査を強化しています。

原子力災害対策本部により検査対象とされている 17 都県（東北 6 県、関東 7 都県、新潟、山梨、長野及び静岡）の平成 25 年度（12 月 31 日時点）の検査では、野菜、果実で放射性セシウム基準値（100 Bq/kg）を超える数値は検出されていません。

品目	検査点数	放射性セシウム量 (Bq/kg)		
		50 以下	50~100	100 超
野菜※	14,713	14,712	1	0
果実	3,745	3,722	23	0

※いちご、メロン、すいかは「野菜」に、タケノコ、わさびは「きのこ・山菜類」に含まれます。

◆最近出荷され始めた農産物の紹介

福島県伊達地域の名産「あんぽ柿」

原料の生柿は放射性セシウムの基準値以下でしたが、柿を干すとセシウムが濃縮されて基準値を超えるため、伊達地域では出荷が自粛されていました。

その後、果実のセシウム濃度を下げるには、樹皮に付着したセシウムを取り除くことが効果的であると分かったため、地域の農家は全ての柿の木（約 25 万本）の表皮を高圧洗浄機で洗い落としました。

また、あんぽ柿を潰さず検査できる機器をメーカーと共に開発し、全箱検査の体制を整えました。

そして、検査を終えたあんぽ柿は、平成 25 年 12 月から出荷されています。

宮城県亘理郡（亘理町・山元町）のいちご園地



亘理町・山元町は東北一のいちご生産高を誇っていましたが、東日本大震災の津波により沿岸集落を中心に壊滅的な被害を受け、いちご園場^{ほじょう}の面積は 5 % にまで減少しました。いちご生産者も 380 人から現在では 210 人に減り、亘理町内では 251 人から 120 人に減ってしまいました。高齢になっていたり、家庭の事情があつたりして再開を断念した方々です。

いちご生産の復興が地域全体の農業復興を推し進めるシンボルになるととして、最新鋭設備を備えたハウス園地で、今年から再びいちご栽培が開始されました。



栽培ハウスは 191 棟、栽培面積 41.1ha になる予定で、このうち、今回、秋吉さんが訪問した浜吉田園地は栽培ハウス 60 棟、栽培面積 13.7ha からなる地区最大規模のいちご園地です。



いちご園地で栽培している「もういっこ」は平成 20 年に品種登録された宮城県オリジナルの品種で、酸味が少なく実が大きいのが特徴です。

東北未来がんばっぺ大使レポート vol.3

津波で被災した東北一のいちご産地の復活



“東北未来がんばっぺ大使”の秋吉久美子さんが大津波で被災した宮城県亘理町のいちご農家を平成 25 年 12 月に訪問して、交流・対談しました。

食品の風評被害防止に向けて

秋吉大使と鈴木夫妻・安藤さんとの対談



鈴木さんご夫妻（敬さん、恵里さん） 東日本大震災の津波により、自宅といちごハウスをすべて失いました。仮設住宅に住みながら、新たに造成された「いちご団地」内で、今年から栽培を再開しました。夫婦で最新設備の整ったハウスでの栽培に取り組んでいます。



安藤 文男さん JAみやぎ亘理中部営農センター長をやっています。長年この地域のいちご栽培に携わってきました。今はいちご栽培再開後、初めての出荷時期が到来し、技術面のサポートなどにあちこちに足を運んでいます。

現地の人の生の声というのはなかなか聞く機会がありません。直接お話をうかがうことが大切だと思います。（秋吉さん）

秋吉さん 震災でこの地区のいちご農家には大きな被害があったそうですね。

鈴木さん 震災の津波で自宅といちごハウスをすべて流されてしまいました。仮設住宅に住みながら、今年からいちご栽培を再開したところです。

安藤さん 震災前、この地域のいちご栽培は東北一の生産高を誇っていたんですよ。

鈴木さん 当時は突き落とされたような気がしました。でも、この地域の農業のために頑張ろうって。

復興の形が少しみえてきた感じがして、すごく嬉しいです。（秋吉さん）

鈴木さん 集落で話し合って、内陸側に新たにいちご団地で、集落のみんなが一緒に再開することができて、喜んでいます。



秋吉さん このようなハウスが何棟あるんですか。
安藤さん 浜吉田団地だけで60棟あります。
秋吉さん そんなにあるんですね。それを考えると、何か、やっとこう、復興の形がみえてきた感じがして、私もすごく嬉しいです。全国の方たちも一緒に応援して欲しいと思います。

鈴木さん 地元で有名な秋吉さんに、今回みたいに現地に来てくれてアピールしてもらえると、ありがたいなあと思っています。

秋吉さん 私は故郷だからというだけではなく、日本のみんながこの土地に暮らしている人たちを応援するのがいいなあと思って、大使を引き受けました。日本中で励まし合っていくべきなんですよ。

「もういっこ」食べたくなるほど美味しいいちごなんです。（安藤さん）

秋吉さん お作りになっているのは、何という品種なんですか。

安藤さん これは「もういっこ」という宮城生まれのいちごです。あんまり美味しいので、もういっこ

食べたくなることから名付けられました。

鈴木さん お味はいかがですか。

秋吉さん とても香りの強い、おいしいいちごですね。実も大きいし。いちごをもらって嫌だって人はいませんよね。



いちご栽培の再開という目標があったので、それに向かって来られました。（鈴木さん）

鈴木さん 私たちの集落はこのハウス団地のそばに集団移転することになっています。来年には自宅を着工する予定です。

秋吉さん まだまだ大変な方たちがいらっしゃいますけど、鈴木さんのように希望がみえてきた方をご紹介できれば、そのような方たちを元気づけられるのではないかでしょうか。そういう意味では、鈴木さんは希望の星なんですよ。よくここまで頑張ってこられましたね。本当に大変だったと思います。

鈴木さん 大変だったんですけど、いちご団地ができるっていうのが目の前にあったので、それに向かって来られました。旗を振ってくれる人がいてくれて、本当に良かったです。

